回覧

リサイクル通信

第129号
平成27年3月1日発行
南橘リサイクルの会

なんきつの町活
町別編⑧

荒　牧　町

荒牧町（約2,000世帯）は、幾つもの学校が点在している文教地区であり、道路沿いには、多くの商業施設が立ち並んで賑わいを見せる一方、9箇所の公園があり、ホタルが飛びかう豊かな自然も残る町です。1月16日、自治会長の関口和敏さんと副会長の後藤稔さんに、町の魅力と環境活動について伺いました。

ご近所力と絆が決めてです

自治会は5地区に分かれ、それぞれの地区で、年間の公園清掃の計画やゴミ集積所の管理を行っています。そして、子どもの見守りパトロールは、町内の皆さんが「安全な町」作りに一致協力して取り組んでいる事業です。

町では、ゴミの散乱や不法投棄など、問題の見つかった箇所は、直ちに対応します。その成果もあり、整然として、比較的クリーンな状態を保てているようです。

「特別な事はしていませんが、常日頃からの活動の中で、住民同志の良いつながりがあるおかげではないでしょうか」と自治会長さんは分析していました。町の広報誌「荒牧町だより」は年10回も、発行されています。

インタビューの様子

町を見守る荒牧神社とお不動様

お不動様の祭典

町には、荒牧神社やお不動様があり、大切にまつられています。

荒牧神社の初詣には、新年を迎えた午前0時から1時半の間に、なんと600人もの長蛇の列ができます。すごいですね！

お不動様は、国道17号からほど近くにあります。何でも大昔、町が大火にあった時にも、その場所だけ火災を免れたという、不思議な言い伝えがあるそうです。1月28日には、地域の人たちにより、祭典がとり行われています。温かいおでんのふるまいや、福引きなどもあってにぎやかです。次から次へと、お参りが絶えません。

すぐ満杯で、うれしい！ 町リサイクル庫

古紙回収は、育成会・体協が中心となって行っています。町リサイクル庫は、年間21トンもの持ち込みがあります！「頻繁に皆さんが持ってきてくれるので、すぐいっぱいになります。もう一箇所あれば良いのかなと思ってはいるのですが」ということでした。

「ごみ減量教室」開催！

1月21日「ごみ減量教室」を行ないました。当日は、市の「出前講座」の講師としてごみ減量課から3名、また、障害福祉サービス事業所「菜の花」の管理責任者に来て頂き、話を伺いました。

「G活チャレンジ！100」

「G活」とは、「ごみ減量活動」の略です。前橋市は、一人が一日に出すごみの量を、あと100グラム減らそうという取り組みをしています。そのためには、紙、プラスチック、衣類などを分別してリサイクルすることが大事です。また、生ごみをギュッとひとにぎり水切りすることによって、10%も減量につながるそうです。そして、料理はなるべく食べ残さないようにすることも、ごみ減量には大切です。

知ってる？小型家電は貴重な資源！

使わなくなった小型家電を、不燃ごみに出していませんか？

携帯電話、パソコン、カメラ、ラジオなどの小型家電には、金や銀、プラチナなど貴重なレアメタルが含まれています。

平成25年4月に小型家電リサイクル法が施行され、前橋市でも同年10月より市役所や各公民館などに回収ボックスを設けて、市民のみなさんにリサイクルに協力してもらっています。小型家電といっても炊飯器や掃除機、電子レンジ、扇風機、プリンターなども含まれます。これらは回収ボックスには入らないので、清掃工場へ直接持ち込んでいただきたいそうです。

回収された小型家電は、障害者支援につながるよ！

パソコンなどのレアメタルのリサイクルは、解体を手作業で行うことが多く、コストや時間がかかります。そのため、一般企業には敬遠され、今は主に障害者施設で取り組んでいます。レアメタルのリサイクルは、障害者の方々の貴重な収入になります。

「菜の花」の管理責任者の萬谷さんは、「少しでも多くの小型家電をリサイクルすることが、障害者の社会参加を促し、自立支援にも役立ちます」と話していました。大事な小型家電を、一つでもムダにすることなく、市の回収ボックスに入れようと思いました。

親子で挑戦！ビュンビュンごま

昨年、12月7日にろばたのつどいが開催されました。

牛乳パックとたこ糸を使ったビュンビュンごまは、ビュンビュンと音を立てて回すのにコツがいります。親子で一緒に、何度も回して楽しんでいました。